GX戦略ロードマップ

2026年 → 2029年 → 2035年 → 2050年

顧客・地域とともに課題を解決し、持続可能なまちづくりに貢献する

気候変動 カーボンニュートラル

KPI		2029年 スコープ1, 2：▲37.8%削減 スコープ3：▲22.5%削減 （2020年度比）	2035年 バリューチェーン全体で▲35%削減 （2020年度比）	残余排出量のオフセット	温室効果ガス排出量ネットゼロ
スコープ1	燃料代替・電化	軽油代替燃料・GX建機の導入推進	次世代バイオ燃料本格利用	低燃費重機・電動重機の利用標準化	カーボンニュートラルの実現
	施工の生産性向上	ICT施工による効率化 / オフサイト化	DX・ロボット等先端技術による生産性向上		
スコープ2	電力の再エネ化	国内再エネ100%（達成済）	自家発電比率向上		
スコープ3	建物運用時のCO2削減（カテゴリー11）	ZEB化・太陽光発電搭載 / スマートビル開発	改修ZEB推進 / スマートビルの提供	脱炭素型まちづくり	
	建材製造時のCO2削減（カテゴリー1）	建物のライフサイクルCO2算定 / 主要建材の低炭素化（コンクリート・鉄・木造化） / 低炭素建材の利用拡大			

自然共生 ネイチャーポジティブ

KPI		2029年 在来種植栽実施率 50% 生物多様性リスク評価実施率 100%			自然と共生する社会
ネイチャーポジティブ	顧客・地域の生物多様性保全	生態系に配慮した提案と実施支援 / グリーンインフラによる多面的価値の提供		自然環境と調和したまちづくり	ネイチャーポジティブの実現
	生態系への影響評価/低減	事業地の生物多様性リスク評価・ミティゲーション措置 / ネイチャーポジティブ貢献度評価と継続改善			
	持続可能な資源調達	木材のトレーサビリティ調査 ・ 持続可能な調達 / サプライヤーとの連携 強化		森林破壊ゼロ/持続可能な資源調達	

資源循環 サーキュラーエコノミー

KPI		2029年 低炭素建材（電炉材）採用率 50% 節水性能の高い水栓機器採用率 50%			資源が循環する社会
つくる	資源消費の最小化	再生材利用促進 / 資源消費量を考慮した設計・施工の推進			サーキュラーエコノミーの実現
つかう	建物の長寿命化	DXを活用したライフサイクルでのデータ管理 / 適切な維持更新による長寿命化への貢献			
	水資源の保全・リスク管理	水循環（節水・雨水利用・雨水浸透等）の提案 / 水リスク管理			
再生する	廃棄物の削減／再資源化	建設廃棄物の分別回収、マテリアルリサイクル、アップサイクル / 再資源化の促進			

新たな環境価値の創出と提供

新技術・新規事業	技術開発・事業化	脱炭素・低炭素への貢献/ 自然資本の保全と活用/ 地域の未利用資源活用		イノベーションによる価値創出	”高”環境づくり
	防災／気候変動適応	防災 / 減災 / 気候変動適応の技術開発・ソリューション提供		レジリエンスの高いまちづくり	
	質の高い再エネ事業	電力消費量以上の再エネ発電（太陽光、風力、小水力、バイオマス）/ 地域共生型の再エネ事業			
サステナビリティ経営	サステナビリティ経営	GX・DX戦略による事業基盤・レジリエンスの強化 / 情報開示の深化 / 環境リテラシー向上			
	ステークホルダーとの連携	ステークホルダー（顧客・地域・サプライヤー・国・NPO・外部イニシアティブ・業界団体等）とのエンゲージメント強化			